

令和7年度 「春の剣道講習会」

4月27日（日）に今年度の「春の剣道講習会」が県立武道館で開催されました。午前には日本剣道形の講習、午後は審判法の講習を行いました。講師は昨年八段になられた清田 敬夫教士が務め、受講生62名が参加しました。

【開講式】



※南会長よる開会挨拶

審判の重要性について

剣道でも「判定」の正しさを今まで以上に求められるので、本日の講習を通して審判技量の向上に努め、各自の剣道観を高めていただきたい。

また、コンプライアンス(法令順守)について、言葉の暴力を含めてパワハラに繋がる行動をしないようにすること。倫理観、公序良俗などの社会的な規範に従い、公正・公平な行動を心掛けていただきたい。

9月開催の「全日本東西対抗剣道大会」について、一丸となって盛り上げたい、等

【公認審判員認定証(更新)を授与した。】

デザイン等が一新された認定証を、清田教士が代表して受け取った。



【日本剣道形】





※日本剣道形講習における重点事項（剣道講習会資料 全剣連）に基づき1本1本確認しながらの分かりやすい講習でした。

「機を見て(捉えて)」と「入り身になろうとする」の違いや、仕太刀の対応は修練の度合いにより変わってくる等、説明が良く理解できた。。

【審判法】



※受講生の中から若手(14名)に試合をしてもらい、それを他の受講生が2試合場に別かれて3人一組にて、それぞれが主審を務めて審判を実施し、講師による指導が行われた。

・位置取りについて

主審は試合者の中心になるようにし、3人の連携を取ること

試合者が上段の時、上段側の副審の位置は突きが見えるようにやや中心に寄る

出来るだけ主審を頂点とした二等辺三角形を維持維持するように動かなければなら

ないが、選手の動きによっては副審が頂点になることもある。

境界線付近での動き方の説明もあった

- ・合議の時、選手が立礼の位置で座ったのを確認してから、主審がまず移動し副審はそれに続くこと。
- ・旗を上げ判定後、元の位置に戻る時に試合者から目を離さないこと。
- ・引き技に対する有効打突の見極めを確かにする
- ・一本先取後の時間空費や公正を害する行為を見逃さないこと

【総括】

清田講師より

審判の判定により試合者の運命が変わることもあるので、真摯に取り組んでほしい
審判控えにての座り方にも注意が必要である